

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 一般国道278号 <small>おさつべ</small> 尾札部道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自： <small>ほつかいどうはこだて</small> 北海道函館市尾札部町 至： <small>ほつかいどうはこだて</small> 北海道函館市大船町		延長 14.8km
事業概要 一般国道278号は、函館市を起点とし、鹿部町を経由し森町に至る延長11.4kmの幹線道路である。当該事業は旧南茅部町市街地を通過する国道278号の狭小幅員や急カーブ等の課題を解消し、道路交通の安全性の向上および物流の効率化を目的とした延長14.8kmのバイパス事業である。		
S61年度事業化 H1年度都市計画決定 S63年度用地着手 H1年度工事着手		
全体事業費 約187億円 事業進捗率 57% 供用済延長 6.0km		
計画交通量 3,000～5,000台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 2.0	総費用 (残事業)/ (事業全体) 72/259億円 (事業費：52/224億円) (維持管理費：21/35億円)
		総便益 (残事業)/ (事業全体) 144/272億円 (走行時間短縮便益：133/244億円) (走行経費減少便益：10/25億円) (交通事故減少便益：0.38/3.4億円)
基準年 平成20年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.2 (交通量 +10%) B/C=1.8 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=1.9 (事業費 +10%) B/C=2.1 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=1.9 (事業期間+1年) B/C=2.0 (事業期間-1年)		
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・安全な生活環境の確保（通学路において、歩道の無い区間に歩道が設置される） ・物流効率化の支援（農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる）		
他8項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 観光や水産業をはじめとした地域の産業振興を支援する産業経済道路として、および災害時の避難路や救援路など住民の日常生活における安全安心な暮らしを支える基幹路線として路線整備が期待されており、函館市をはじめとする2市4町の首長で構成される函館広域幹線道路整備促進期成会より、早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成13年函館新道開通。平成18年北海道縦貫自動車道・国縫IC～八雲IC供用開始。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成元年度より工事に着手し、用地進捗率63%、事業進捗率57%となっている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き事業が順調に進んだ場合、平成20年代中頃の事業完了を予定している。		
施設の構造や工法の変更等 設計方法の見直しによるコストの縮減を図っている。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。